

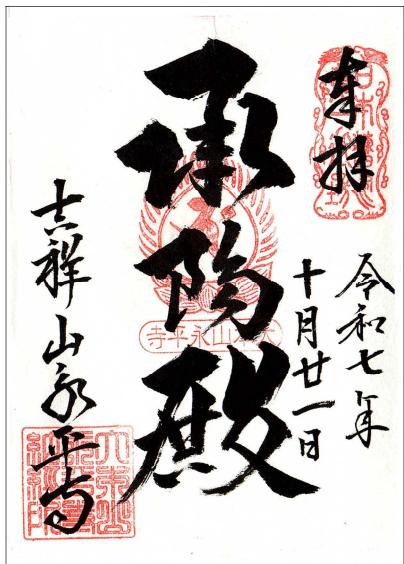


“源溪山だより”

<https://chouanji.p-kit.com/> 令和11月①
住職 恩田仁志 gen-chouanji@aka2.gmobb.jp



◆大本山永平寺へお参りしました



【吉祥山永平寺でいただいた御朱印】
承陽殿とは山門から見て左上にある堂宇で道元禪師の真廟です。道元禪師及び歴代住職の位牌が安置され、日本曹洞宗の聖地と言われる処です。

宗務所団体研修として、当山からの3名の檀家様を含め大型バス2台に乗り込んだ皆様と一緒に永平寺へ出かけました。

夜の坐禅やご法話などの後、早々に就寝し、朝は3時半頃起床。4時過ぎからの坐禅とお勤めなどに皆さん真剣に取り組まれました。急に冷え込む中でしたが、お勤めが終わるころ外が明るくなり清々しい朝を迎えました。

さて、禅の世界では「修行」をとても大切なものとして位置づけています。「修行」と似た言葉で「修業」という言葉があります。読み方はいずれも「しきょう」ですが、意味は違います。「修業」は職業や技術を習得していくこと。たとえば「大工の修業」のように、何も知らないところから師匠のもとで少しづつ技術を積み重ねていくことを意味します。

一方「修行」は、行いを修めていくという意味で、禅、特に曹洞宗の「修行」では、日々の生活を調べ、修めていくことを意味しています。

坐禅やお勤めが修行のひとつということはもちろんですが、顔を洗う事、食事をいただく事、お手洗いを使う事、掃除をすることなど日常生活の一つ一つの行いを丁寧に修めていくことが修行です。

団体研修をされた方はお釈迦様や道元禪師様と同じように修行の時間を過ごされました。その姿は仏に他なりませんと閉講式で老師様から拝聴しました。

日々は様々な煩惱に振り回されますが、一分一秒でも修行の瞬間にいてこうとすることが大切です。

永平寺の参道入口に一对の石柱があります。「杓底一残水 汲流千億人(しゃくていのいちざんすい ながれをくむせんおくにん)」と彫ってあります。「使わずに柄杓の底に残った水を川の流れに戻せば、また共に生きる多くの人々が使うことが出来る。自然やものを大切に、他と共に生きている自己を振り返り、他者への思いやりを大切に」というのが趣旨です。道元禪師の故事に基づく言葉です。



遅くなりましたがご報告を一つ。

秋彼岸に併せ皆様からお預かりした品々は「更生保護法人しらふじ」様へ届けました。

不要なもの、杓底の水の如きものばかりではなかったでしょうが、ご協力いただいたものは、社会全体に活かされることにつながること間違いないことです。ありがとうございました。

